

京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書

平成28年 9月 2日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

所属部局・研究科 教育学研究科

職 名・学 年 特別研究員(申請時 技術補佐員)

氏 名 ユ リ ラ

助成の種類	平成28年度 ・ 若手研究者在外研究支援 ・ 国際研究集会発表助成		
研究集会名	第26回国際霊長類学会		
発表題目	A comparative study on behavioral synchrony in chimpanzees and humans		
開催場所	Navy Pier, Chicago, Illinois, USA		
渡航期間	平成28年8月20日 ～ 平成28年8月28日		
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料 ■ 無 □ 有()		
会計報告	交付を受けた助成金額	300,000円	
	使用した助成金額	300,000円	
	返納すべき助成金額	0円	
	助成金の使途内訳	航空賃・宿泊料	281,729円
		ESTA申請料	1,400円
		空港までの国内移動料(往復)	31,160円
		合計	314,289円
	上記に充当		
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。) 今回の助成のおかげで不自由なく学会に集中することができました。また、滞在中に海外の研究者とも親密に交流できる機会もあり、申請して良かったと思っております。このたびはご助成くださりありがとうございました。		

成果の概要／ユリラ

京都大学教育研究振興財団助成事業より、若手研究者在外研究支援・国際研究集会発表助成を受け、アメリカ・シカゴで開催された第26回国際霊長類学会に参加した。本学会はリンカンパーク動物園レスター・フィッシャー類人猿保全研究センターの主催のもと、1週間（2016年8月21日～2016年8月27日）にかけて開催された。国際霊長類学会は2年に1度行われる霊長類学分野で最大の国際学会であり、当分野での最新の成果が発表される。若手研究者にとってこのような国際学会は自分の研究を大きくアピールする機会であり、他国の研究者と交流できる場としてキャリア形成の上で参加の意義が最も大きい。採択者にとっては直近2年間の間に国際学術誌へ投稿した2本の研究論文の研究成果を国際コミュニティに発信し、高いレベルでの批判を受けることのできた貴重な機会となった。また、トップ研究者たちから直接研究キャリア形成のアドバイスをもらえたことは大きな成果であった。

8月22日の午後、シンポジウム「Comparative study of chimpanzees and bonobos: 2 by 2 comparison to understand the evolutionary origin of human cognition and behavior」で発表を行った。「A comparative study on behavioral synchrony in chimpanzees and humans」と題した私の研究は、1) チンパンジーはヒトと同様に他個体の行動に同調する方向で時間的調整を行う、2) ただし、その速度調整、行動の正確さ、行動への注意の向け方には一定の種差がみられる、ことを明らかにしたものである。2年前の第25回国際霊長類学会での発表からの研究進捗をクリアにすることと博士論文とレビュー論文をまとめる中で自身が深めた視点を聴衆にアピールすることを意識して発表を行うことができた。発表は予定通り時間内に終わることができ、発表後には、ドイツにある Max Plank Institute (MPI) のユニットリーダーである Dr. Josep Call と1対1で議論する貴重な時間をもてた。MPI は京都大学霊長類研究所 (KUPRI) と並んで比較認知科学研究分野では世界的に有名な研究所であり、彼はその研究をリードする研究者である。これまで私の研究発表を3度も聞いてくれた彼と今後の研究にかんする議論ができたこと、研究者としてのキャリアアップにかんするアドバイスを得られたことは、国際学会へ積極的に参加および発表してきたからこそその機会だったと思う。

学会2日目に発表が終わったため、残りの学会期間中は他の研究者の発表に集中することができた。自分の研究と関連する発表だけでなく、野外調査地での観察研究や大型類人猿以外の霊長類を対象とした研究発表を多く聞くようにした。最も印象的だったのが Dr. Jane Goodall の講演であった。朝早い時間 (08:30～09:30) にもかかわらず、300名ほどの人が霊長類学のパイオニアである彼女の講演を聞きに来た。生き物に大きな関心があった小さい頃の話から始まり、アフリカ・ゴンベで野生チンパンジーの行動観察研究を始めたきっかけ、アカデミアを出て環境保全活動家になったきっかけなどのお話、現在ゴンベで若手研究者により行われている研究などの紹介があった。先月、彼女が来日した際、すでに2度も講演を聞いていたが、本学会で彼女の講演を聞くのはまた意味が違った。学会期間中、若手研究者を中心とした KUPRI-MPI 交流会も行った。この交流会は2年前の国際霊長類学会で始まり、同世代の研究者と気楽に研究や研究生活にかんする情報を交換する場である。大学院生として京都大学霊長類研

究所に在籍していた当時に知り合った多くの人が私と同じく今年に博士学位を取った。今後とも活発な研究交流を続けて行きたい。

このたびこのような貴重な渡航の機会をくださった京都大学教育研究振興財団ならびに推薦を頂いた京都大学教育学研究科の明和政子先生に感謝申し上げます。ありがとうございました。



メイン会場の入り口



発表の様子